

# 長浜企業 景況調査

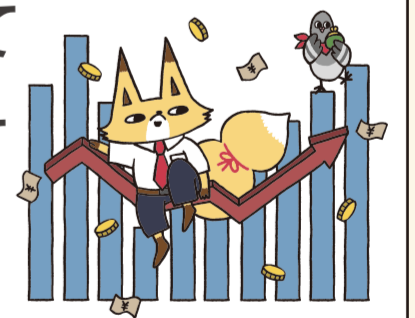
## 報告書



**実績** 2026年 1月～3月  
**見通し** 2026年 4月～6月

### 今期のトピックス

- ①米国の追加関税措置による影響について
- ②燃料価格上昇・国際情勢の影響について



### アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！  
発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。  
補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)  
健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→  
Google Play ストアからダウンロード



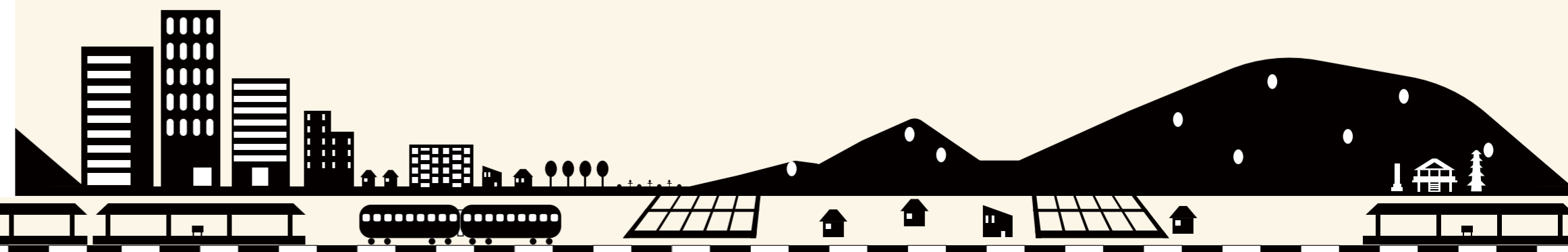
■Iphone・ipad をご利用の方→  
App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**  
NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



# コンテンツ

- 01 調査概要
- 02 今期のトピックス
- 03 全体の景況感（総括）
- 04 調査項目別 DI 値
- 04 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）
- 05 業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業）
- 07 設備投資の有無
- 08 調査項目別 DI の推移
- 10 その他業種別自由意見

## 調査概要

### 長浜企業景況調査について

- ① 調査対象期間・調査時点  
調査対象期間：令和8年1月～3月  
調査時点：令和8年4月1日
- ② 調査方法  
長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式・メール方式による調査
- ③ 調査対象企業数  
220社（内訳は右表通り）
- ④ 報告者  
中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	21	9.5%	13	9.7%	61.9%
小売業	35	15.9%	20	14.9%	57.1%
サービス業	84	38.2%	46	34.3%	54.8%
建設業	38	17.3%	21	15.7%	55.3%
製造業	42	19.1%	34	25.4%	81.0%
合計	220	100.0%	134	100.0%	60.9%

\*2025年4～6月期に、現在の会員企業の業種構成に近づけるため調査対象企業の見直しを行いました。その結果、サービス業及び建設業の構成比が増加し、他の3業種の構成比が減少しました。

### 長浜企業景況調査の見方について

#### DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況（自社）」「売上高」「採算（経常利益）」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向（同業他社）」「長・短期資金借入難易度」「受注動向（建設業）」「在庫量（製造業）」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

#### DI 指数の見方について

- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気が良い」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDI、サービス業は従業員DIの推移が注目する指数です。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のため1～3月期は総じて低調な傾向となります。

#### 設備投資の見方について

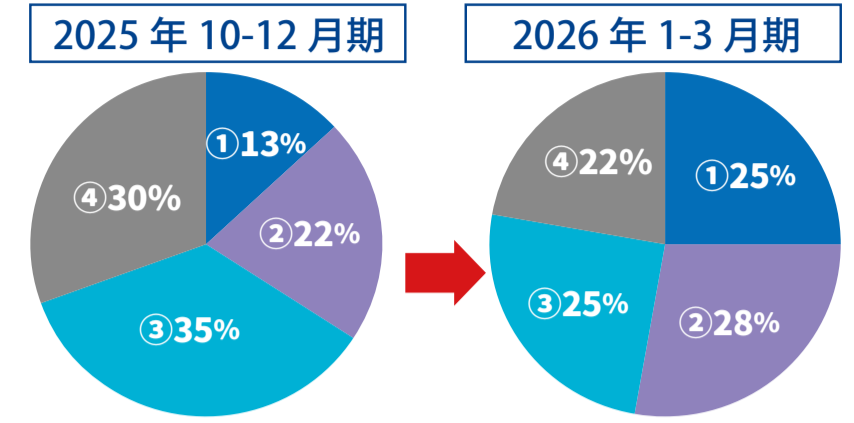
- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

# 今期のトピックス

## 1. 米国の追加関税措置による影響

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 悪影響がある	4	4	11	8	5	32
② 少し悪影響がある	4	5	12	6	9	36
③ 悪影響はない	2	7	7	3	14	33
④ 無関係な業種・職種	3	4	14	3	5	29
合計	13	20	44	20	33	130

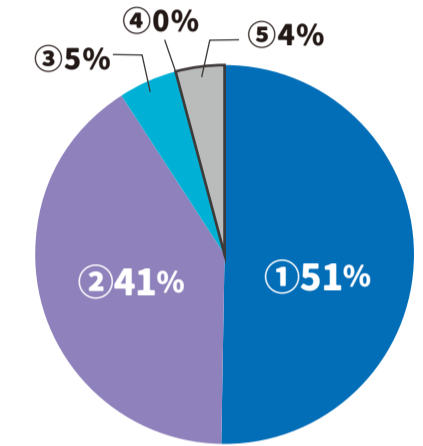
■…悪影響がある ■…少し悪影響がある ■…悪影響はない ■…無関係な業種・職種



## 2. 燃料価格の上昇および国際情勢（戦争・紛争等）による影響

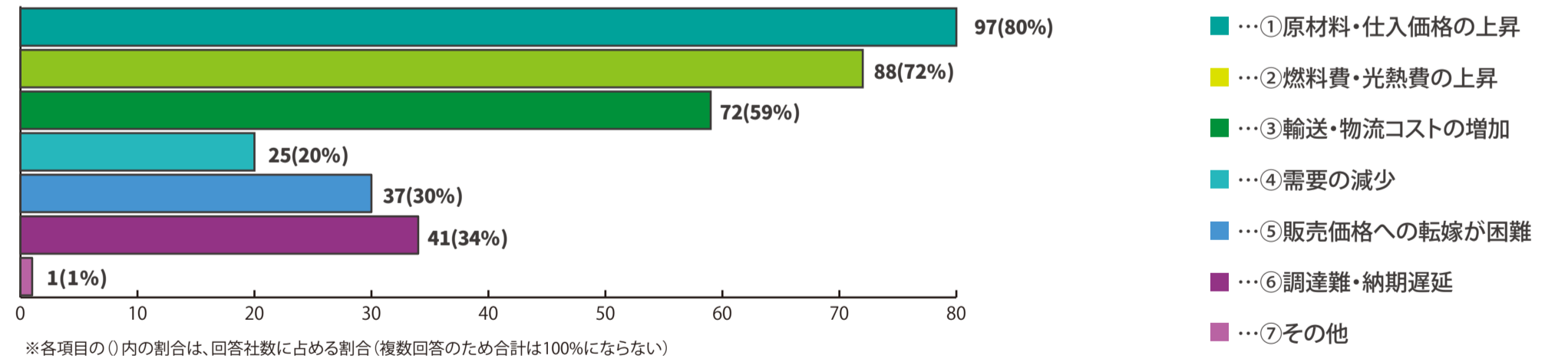
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 大きな悪影響がある	9	11	15	12	21	68
② やや悪影響がある	4	9	22	7	12	54
③ 影響はない	0	0	4	2	0	6
④ 好影響がある	0	0	0	0	0	0
⑤ わからない	0	0	5	0	0	5
合計	13	20	46	21	33	133

■…大きな悪影響がある ■…やや悪影響がある ■…影響はない ■…好影響がある ■…わからない



## 2-2. 上記で①または②と回答した場合、その内容（複数回答あり、有効回答社数122社、回答数361）

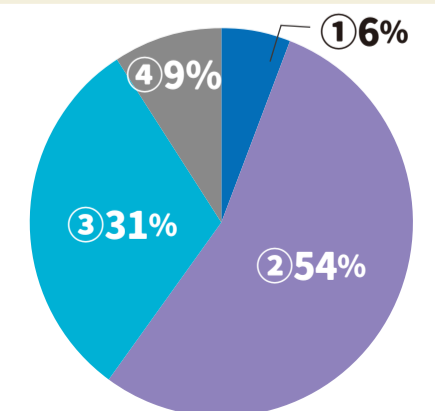
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 原材料・仕入価格の上昇	13	18	22	15	29	97
② 燃料費・光熱費の上昇	12	13	26	16	21	88
③ 輸送・物流コストの増加	11	14	19	11	17	72
④ 需要の減少	5	8	5	5	2	25
⑤ 販売価格への転嫁が困難	5	9	9	7	7	37
⑥ 調達難・納期遅延	5	6	2	10	18	41
⑦ その他	0	0	1	0	0	1
合計	51	68	84	64	94	361



## 3. コスト上昇分の販売価格への転嫁状況

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 転嫁できている	1	3	1	1	2	8
② 一部転嫁できている	9	9	18	9	22	67
③ 転嫁できていない	3	7	18	4	6	38
④ 該当なし	0	0	7	4	0	11
合計	13	19	44	18	30	124

■…転嫁できている ■…一部転嫁できている ■…転嫁できていない ■…該当なし



# 全体の景況感（総括）

## 業況DIは3期連続上昇し、7期ぶりにプラス圏へ

全体の業況DIは、前期（2025年10-12月期）の▲1.5から今期は4.5と3期連続で上昇し、7期ぶりにプラス圏となりました。売上高DIは9.8で前期比7.6ポイント上昇し、採算（経常利益）DIは▲1.5で同2.2ポイントマイナス幅が縮小しました。

販売価格DIは46.6で前期比8.0ポイント、仕入れ価格DIは75.0で同12.1ポイント、ともに上昇しました。その結果、販売価格DIから仕入れ価格DIを差し引いた価格転嫁度は▲28.4で、同4.1ポイント低下（後退）しました。従業員DIは▲24.4で、同4.7ポイント不足感が弱まりました。

来期（2026年4-6月期）の業況DIは▲6.9で、今期より11.4ポイント低下し再びマイナス圏の見通しとなっています。

## 業況DIは建設業、製造業で上昇。来期は全ての業種で低下見通し。

業種別の業況DIは、建設業、製造業は上昇、卸売業、サービス業、小売業は低下しました。売上高DIは、卸売業を除く4業種で上昇しました。採算DIは、卸売業、サービス業を除く3業種で上昇しました。従業員DIは、製造業で不足感が強まり、他の4業種で弱まりました。

卸売業は、売上高DI（0.0）、採算DI（▲7.7）がともに低下し、業況DI（▲15.4）は低下しました。採算の水準DI、取引の問い合わせDIの低下が目立ちました。小売業は、売上高DI（10.0）、採算DI（▲5.0）がともに上昇しましたが、採算の水準DIや資金繰りDIが低下したためか、業況DI（10.0）は低下しました。サービス業は、売上高DI（11.1）は上昇しましたが、採算DI（▲4.3）が低下し、業況DI（0.0）は低下しました。建設業は、売上高DI（9.5）、採算DI（9.5）がともに大幅に上昇、業況DI（14.3）は上昇し4期ぶりにプラス圏となりました。製造業は、売上高DI（11.8）、採算DI（0.0）がともに上昇、業況DI（8.8）は上昇し6期ぶりにプラス圏となりました。

来期の業況DIは、全ての業種で低下する見通しとなりました。特に卸売業は▲46.2で、今期から30.8ポイント低下する見通しとなっています。

2026年2月28日に勃発した米国・イスラエルのイラン攻撃によるホルムズ海峡の事実上の封鎖は、全ての業種に少なからず影響を与えると思われます。原材料等の価格上昇、燃料費等のコスト増に加え石油製品に代表される調達難製品の拡大が景況感に影を落とすことが懸念されます。

## 設備投資計画はやや強まる

本調査と同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」と答えた企業の割合は前期より1.6ポイント増加し28.6%となりました。最も高かったのは製造業（44.1%）で、次いで建設業（33.3%）、卸売業（23.1%）、サービス業（21.7%）、小売業（15.8%）の順でした。

投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資（15.8%）と「合理化・省力化」投資（26.3%）の合計が42.1%と前期より3.8ポイント減少しました。

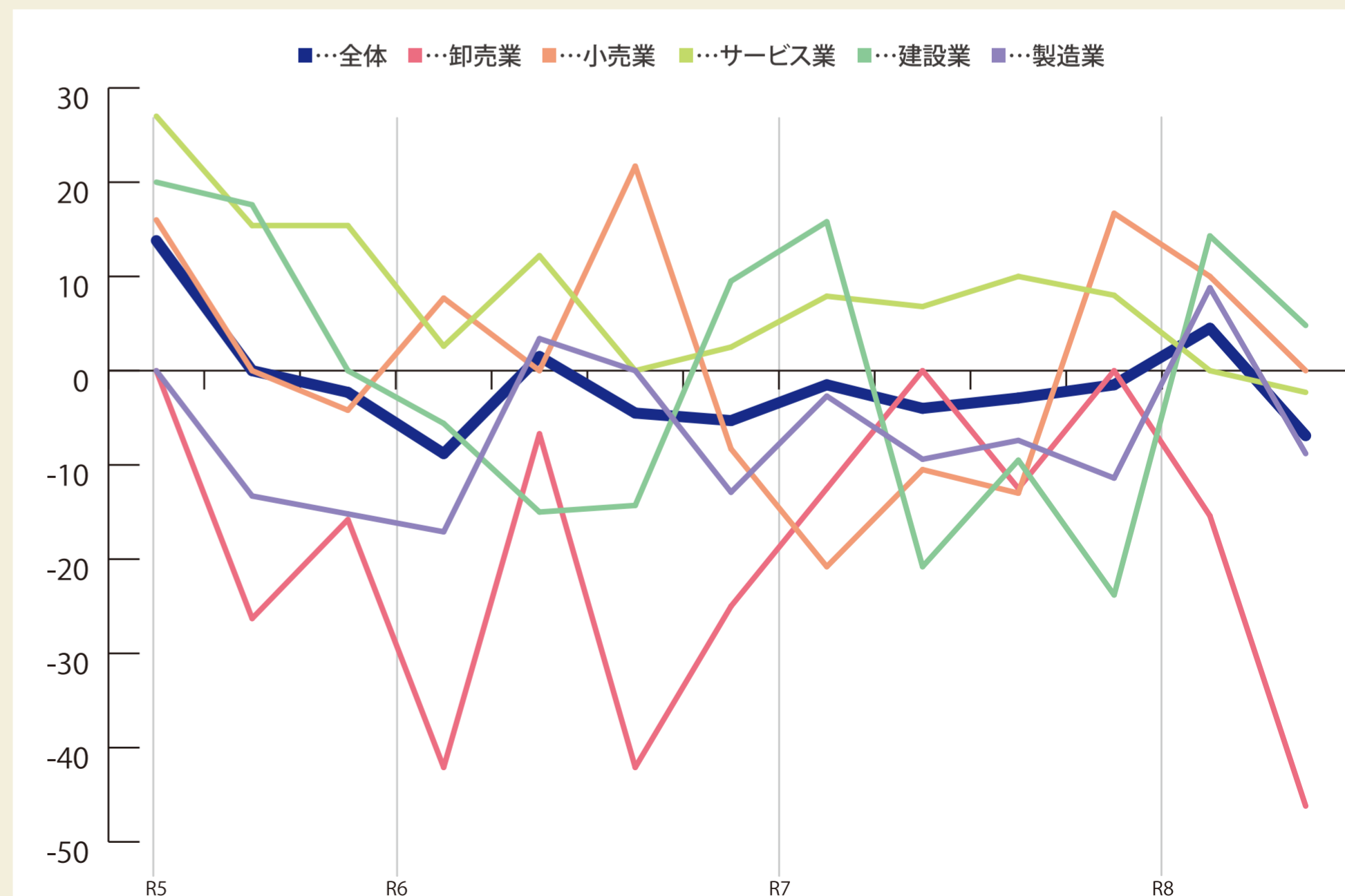
採算DIが19四半期（4.75年）連続でマイナス圏が続く中、設備投資の機会を探る動きが続きそうです。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

# 調査項目別 DI 値

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
業況	▲ 1.5	▲ 4.0	▲ 2.9	▲ 1.5	4.5	▲ 6.9
売上高	1.5	▲ 2.0	▲ 5.1	2.2	9.8	▲ 3.1
採算(経常利益)	▲ 3.7	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 3.7	▲ 1.5	▲ 16.8
資金繰り	▲ 6.0	▲ 2.7	0.0	2.3	▲ 2.3	▲ 5.4
従業員	▲ 20.3	▲ 20.8	▲ 24.3	▲ 29.1	▲ 24.4	▲ 24.8
取引の問い合わせ	▲ 17.6	▲ 6.8	▲ 12.0	0.0	▲ 3.8	▲ 10.2
採算の水準	11.4	23.8	13.5	23.5	17.9	17.7
販売価格	47.0	40.7	38.8	38.6	46.6	52.3
仕入れ価格	78.0	66.0	63.2	62.9	75.0	78.4
業界動向	▲ 30.8	▲ 17.9	▲ 21.8	▲ 15.9	▲ 21.5	▲ 23.0
借入難易度(長期)	0.8	7.1	0.8	3.1	5.6	5.6
借入難易度(短期)	2.3	9.2	6.2	8.5	8.1	6.5
受注動向(建設業)	15.8	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 28.6	▲ 4.8	4.8
在庫量(製造業)	▲ 12.9	▲ 14.8	▲ 8.3	10.0	0.0	▲ 3.1

# 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



※R8.4-6のDIは見通し

# 業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

**業況の動き アイコンの説明**

- 前期の業況DI値から +1以上
- 前期の業況DI値から +1未満▲1超
- 前期の業況DI値から ▲1以下

※全国の業況DI... 「中小企業業況調査」 (中小企業庁)結果より

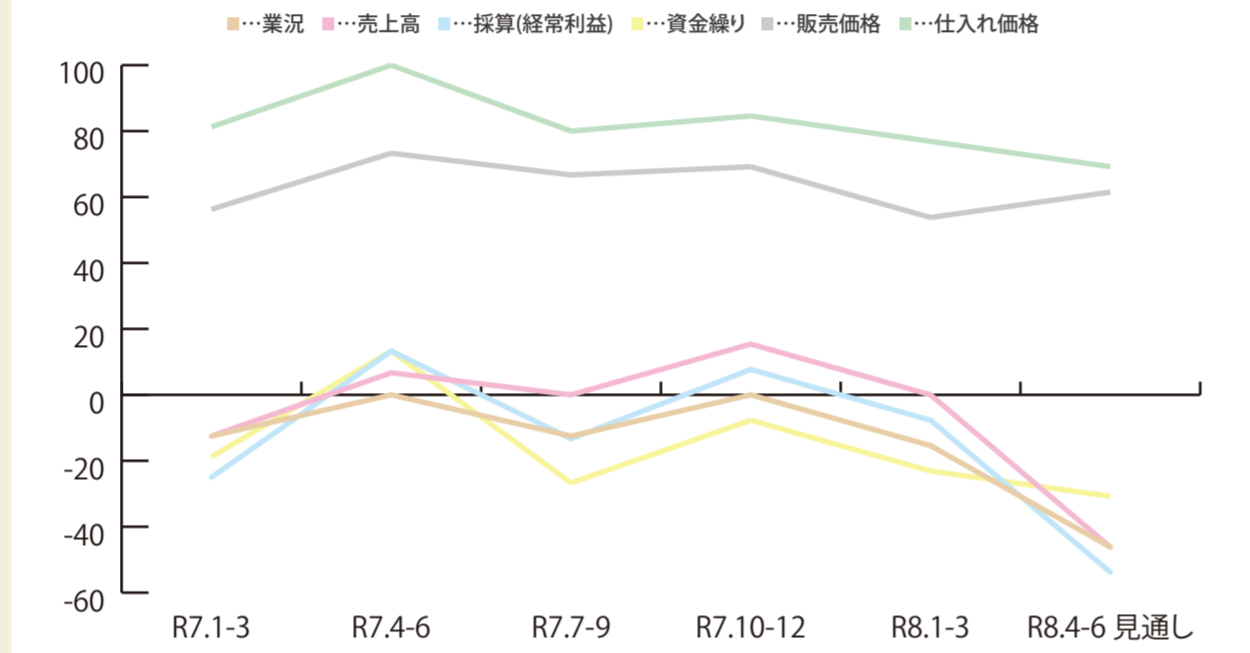
### 卸売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲15.6→▲15.1

長浜: 業況DI 0.0→▲15.4

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
業況	▲12.5	0.0	▲12.5	0.0	▲15.4	▲46.2
売上高	▲12.5	6.7	0.0	15.4	0.0	▲46.2
採算(経常利益)	▲25.0	13.3	▲13.3	7.7	▲7.7	▲53.8
資金繰り	▲18.8	13.3	▲26.7	▲7.7	▲23.1	▲30.8
販売価格	56.3	73.3	66.7	69.2	53.8	61.5
仕入れ価格	81.3	100.0	80.0	84.6	76.9	69.2



### 事業者の声

**好転**

- 得意先が好調

**悪化**

- 中東状況による調達難・価格上昇気配からの生産調整と景況の変化
- 原油由来の製品の値上がり激しい
- 政府の対策がいつまでも続けられるものではないので影響は大きい
- すべての商品を価格転嫁する事は難しい

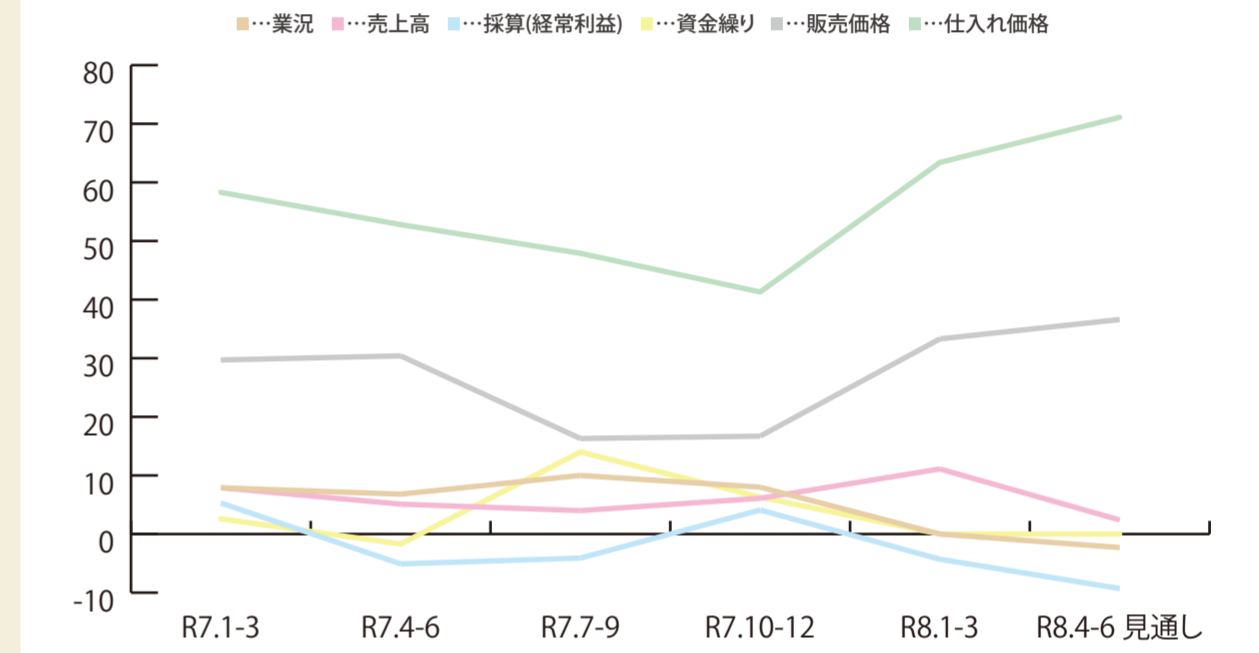
### サービス業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲13.2→▲15.4

長浜: 業況DI 8.0→0.0

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
業況	7.9	6.8	10.0	8.0	0.0	▲2.3
売上高	7.9	5.1	4.0	6.1	11.1	2.4
採算(経常利益)	5.3	▲5.1	▲4.1	4.1	▲4.3	▲9.3
資金繰り	2.6	▲1.7	14.0	6.3	0.0	0.0
販売価格	29.7	30.4	16.3	16.7	33.3	36.6
仕入れ価格	58.3	52.8	47.9	41.3	63.4	71.1



### 事業者の声

**好転**

- 不動産の取得や整理に伴う処分などの動きが徐々に活発になってきている
- 問い合わせの数が増えた
- 博覧会での周知が進み多くのお客様が来られている

**悪化**

- 現役世代の減少で潜在化していた地域経済の縮小が顕在化する傾向を強めている
- 為替動向による輸入品単価の上昇
- 高齢者サービスの利用、変容(在宅から施設入所へ)

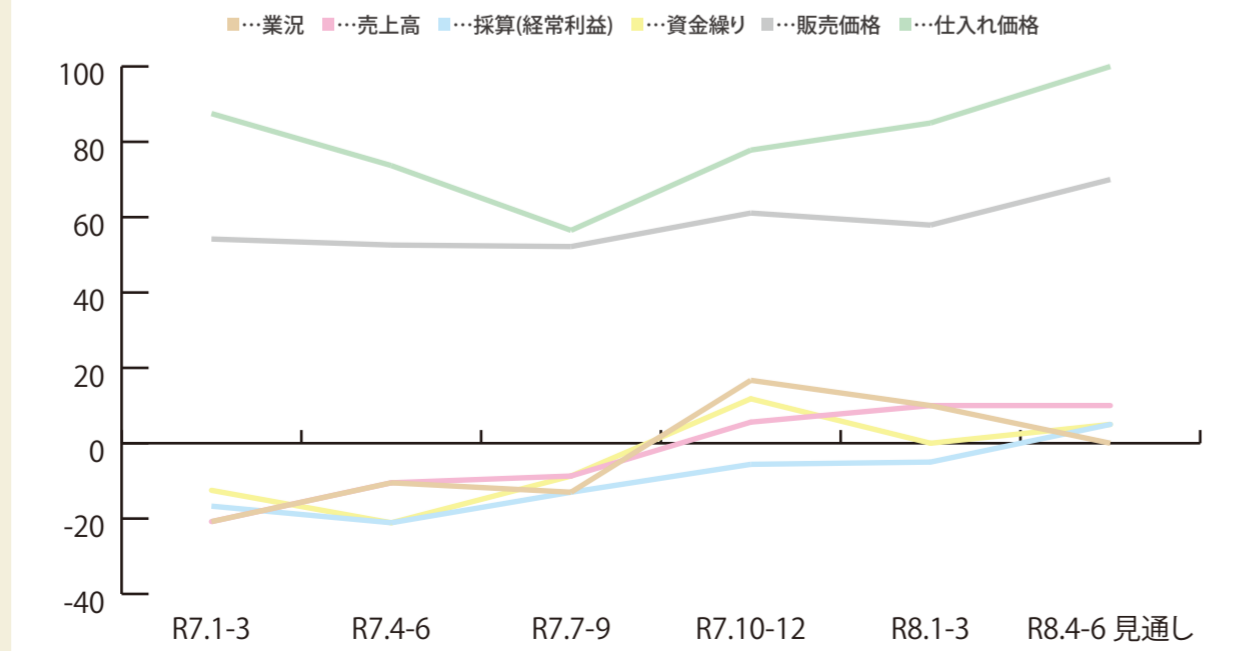
### 小売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲28.4→▲26.5

長浜: 業況DI 16.7→10.0

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
業況	▲20.8	▲10.5	▲13.0	16.7	10.0	0.0
売上高	▲20.8	▲10.5	▲8.7	5.6	10.0	10.0
採算(経常利益)	▲16.7	▲21.1	▲13.0	▲5.6	▲5.0	5.0
資金繰り	▲12.5	▲21.1	▲8.7	11.8	0.0	5.0
販売価格	54.2	52.6	52.2	61.1	57.9	70.0
仕入れ価格	87.5	73.7	56.5	77.8	85.0	100.0



### 事業者の声

**好転**

- 大河ドラマ豊臣兄弟のドラマ館等の博覧会で来訪者の増加
- 石油関連商品の抱え込み注文、新規問い合わせ増
- 福祉事業は堅調に推移している

**悪化**

- 原油価格の高騰で石油製品の原材料の高騰や納期遅延の恐れがある
- 鶏肉の外国産が輸入停止している為、国産鶏肉の価格が上昇している
- ビニール等の値上げと米製品の値上げ

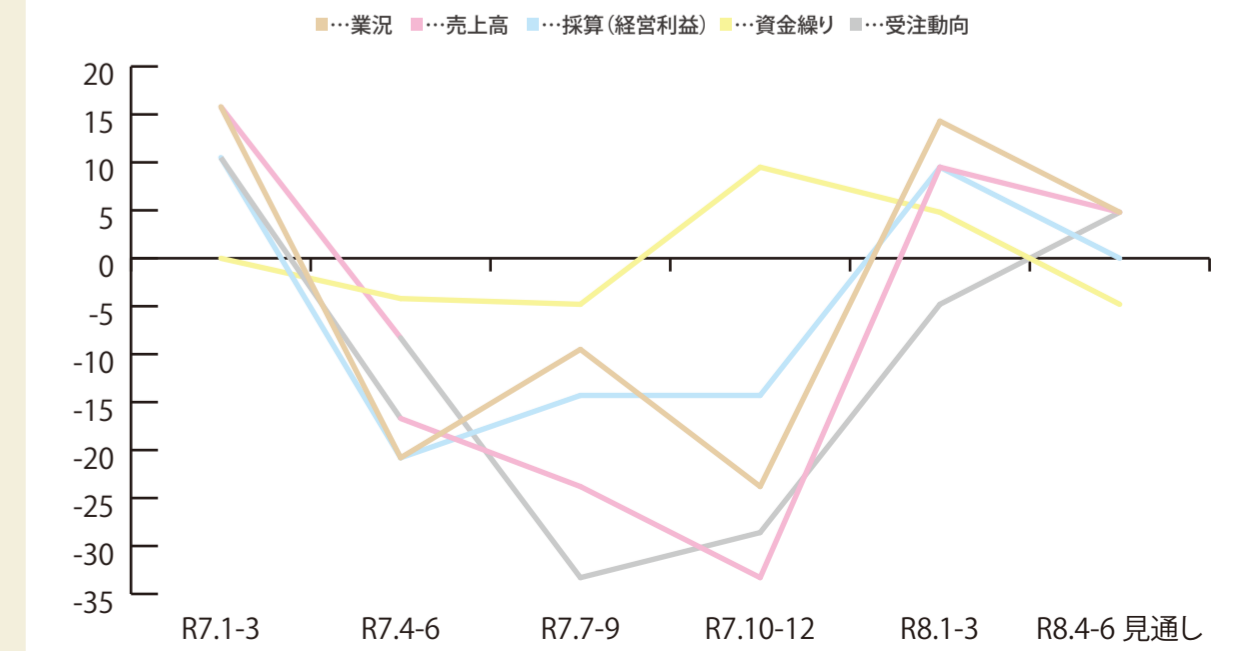
### 建設業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲8.7→▲11.3

長浜: 業況DI ▲23.8→14.3

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
業況	15.8	▲20.8	▲9.5	▲23.8	14.3	4.8
売上高	10.5	▲16.7	▲23.8	▲33.3	9.5	4.8
採算(経常利益)	10.5	▲20.8	▲14.3	▲14.3	9.5	0.0
資金繰り	0.0	▲4.2	▲4.8	9.5	4.8	▲4.8
受注動向	15.8	▲8.3	▲33.3	▲28.6	▲4.8	4.8



### 事業者の声

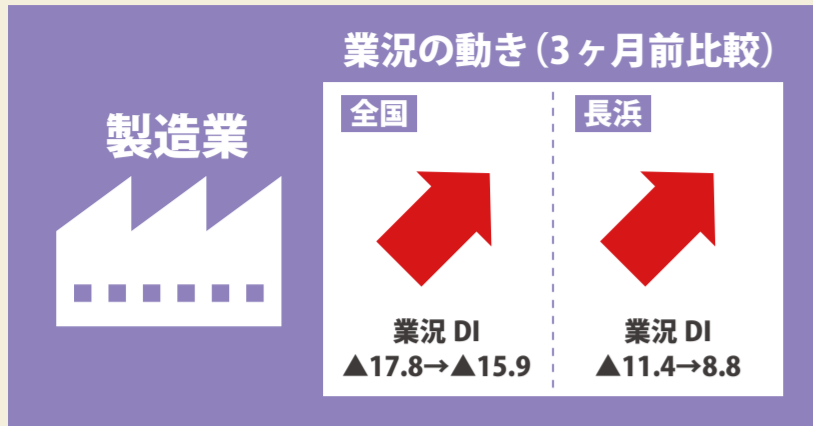
**好転**

- 問い合わせ件数の増加
- 事務所の建替えや社宅、仮眠室・休憩室等の社内環境整備の動きが見られる

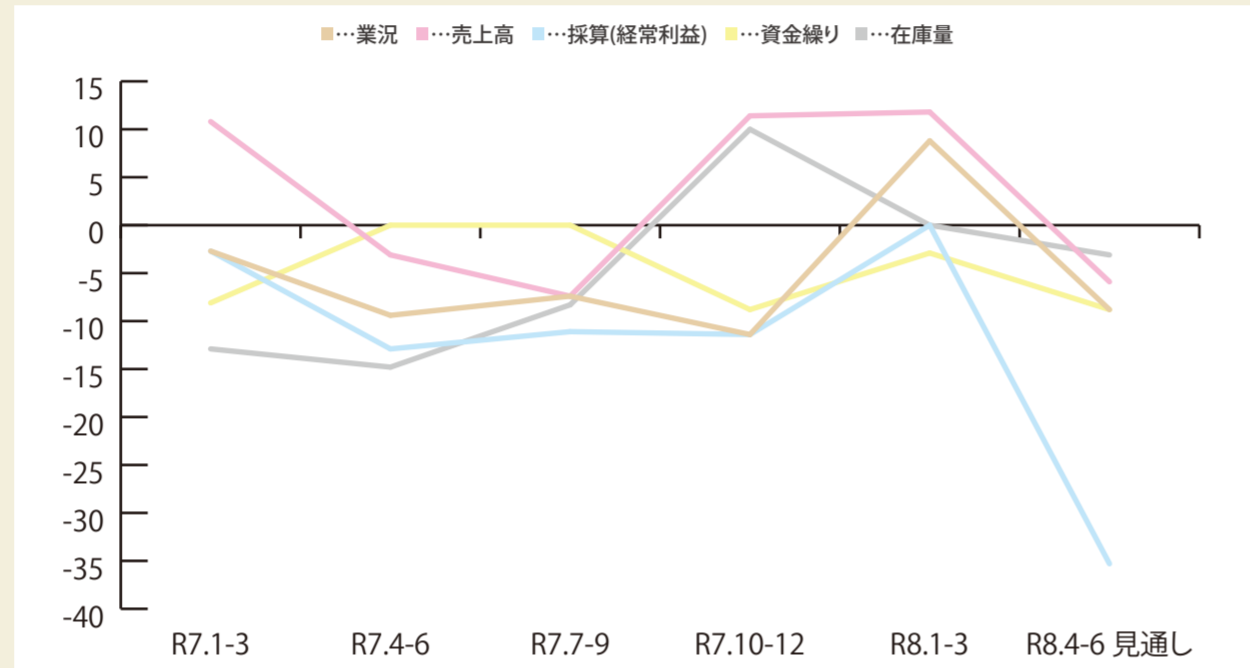
**悪化**

- 原価上昇分を転嫁出来ず利益率低下
- ホルムズ海峡封鎖による原油供給不安の影響で先行き状況読めない
- 塗装関係の資材の入手が困難になってきている

# 業種ごとの動向（製造業）



	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
業況	▲2.7	▲9.4	▲7.4	▲11.4	8.8	▲8.8
売上高	10.8	▲3.1	▲7.4	11.4	11.8	▲5.9
採算(経常利益)	▲2.7	▲12.9	▲11.1	▲11.4	0.0	▲35.3
資金繰り	▲8.1	0.0	0.0	▲8.8	▲2.9	▲8.8
在庫量	▲12.9	▲14.8	▲8.3	10.0	0.0	▲3.1



## 事業者の声

### 好転

- ・受注が増えた
- ・継続して船舶用環境装置の需要は旺盛
- ・価格転嫁は交渉がしやすくなった

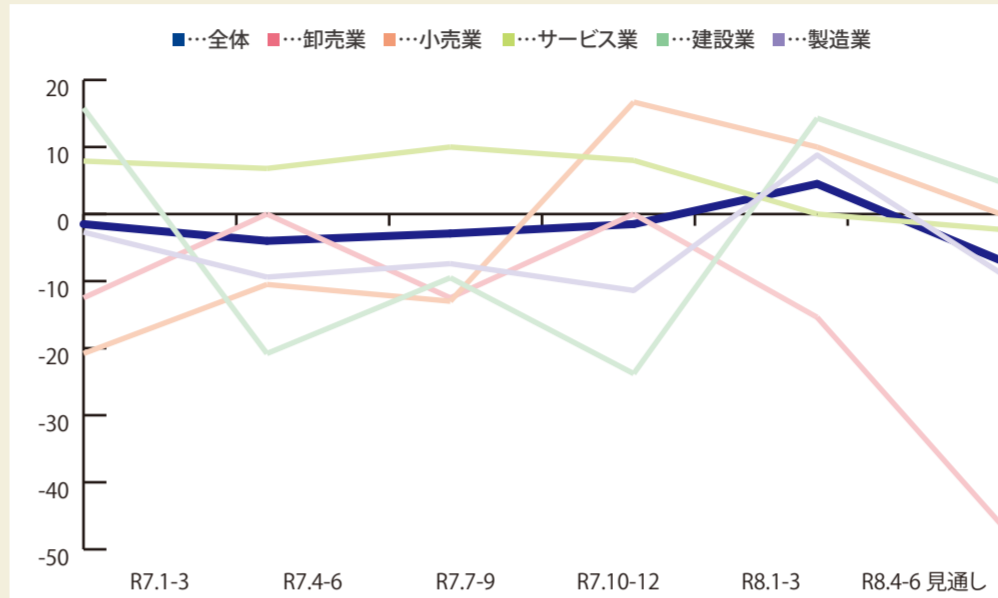
### 悪化

- ・ナフサを主原料とするシンナー供給に支障あり
- ・石油由来の仕入れ商品の高騰によるダメージ
- ・国のレアアースやレアメタルの輸出制限により入手できない金属がでてきている

# 調査項目別 DI の推移①

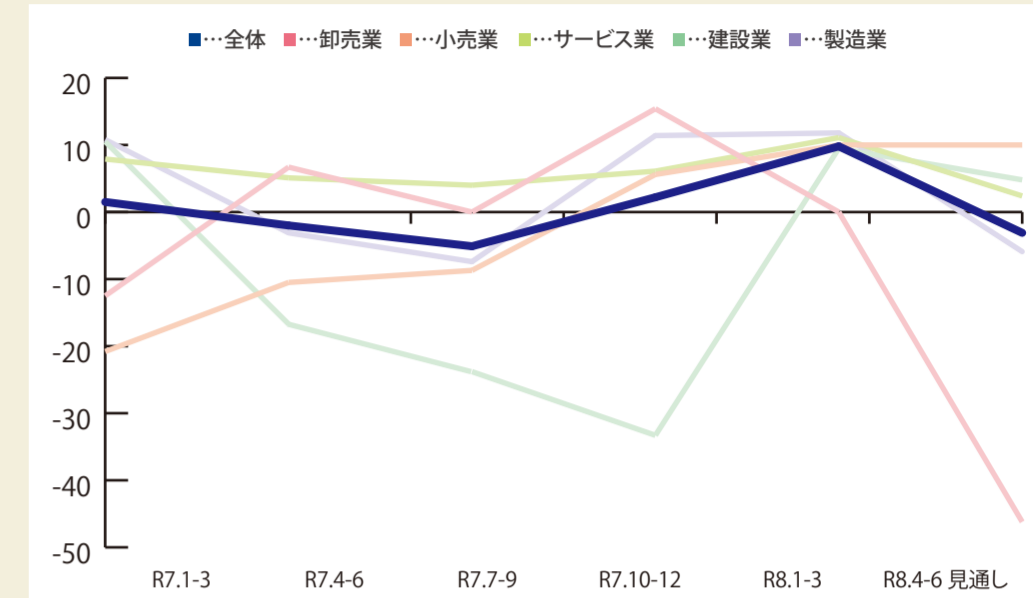
## 業況（好転-悪化）

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	▲1.5	▲4.0	▲2.9	▲1.5	4.5	▲6.9
卸売業	▲12.5	0.0	▲12.5	0.0	▲15.4	▲46.2
小売業	▲20.8	▲10.5	▲13.0	16.7	10.0	0.0
サービス業	7.9	6.8	10.0	8.0	0.0	▲2.3
建設業	15.8	▲20.8	▲9.5	▲23.8	14.3	4.8
製造業	▲2.7	▲9.4	▲7.4	▲11.4	8.8	▲8.8



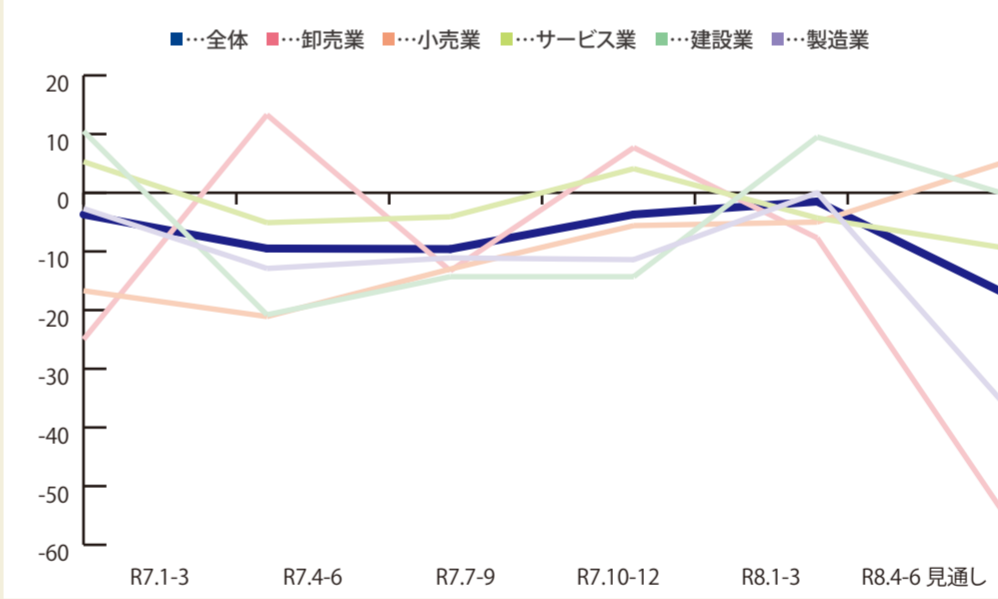
## 売上高（増加-減少）

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	1.5	▲2.0	▲5.1	2.2	9.8	▲3.1
卸売業	▲12.5	6.7	0.0	15.4	0.0	▲46.2
小売業	▲20.8	▲10.5	▲8.7	5.6	10.0	10.0
サービス業	7.9	5.1	4.0	6.1	11.1	2.4
建設業	10.5	▲16.7	▲23.8	▲33.3	9.5	4.8
製造業	10.8	▲3.1	▲7.4	11.4	11.8	▲5.9



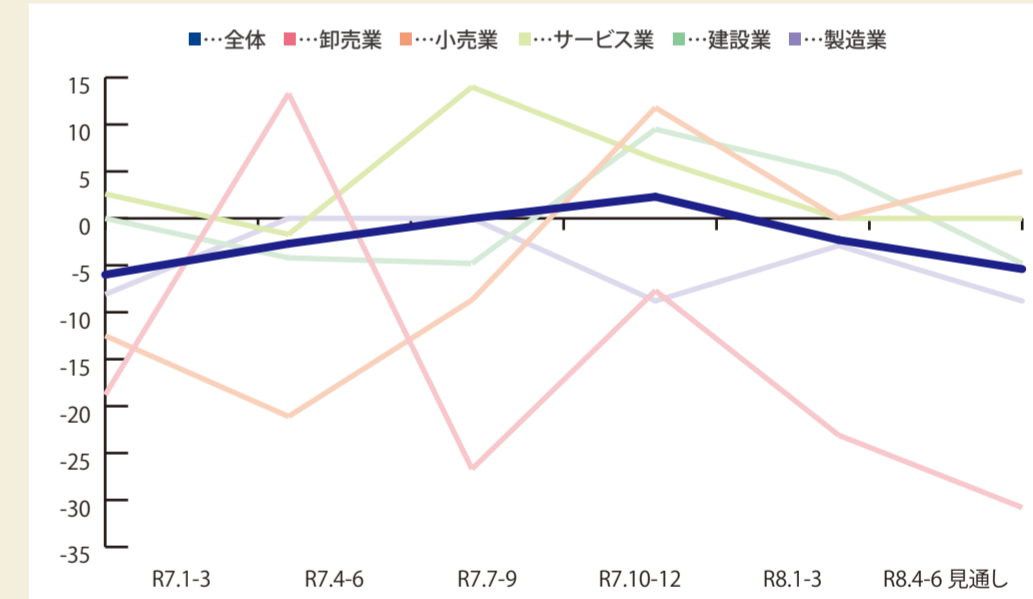
## 採算（好転-悪化）

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	▲3.7	▲9.5	▲9.6	▲3.7	▲1.5	▲16.8
卸売業	▲25.0	13.3	▲13.3	7.7	▲7.7	▲53.8
小売業	▲16.7	▲21.1	▲13.0	▲5.6	▲5.0	5.0
サービス業	5.3	▲5.1	▲4.1	4.1	▲4.3	▲9.3
建設業	10.5	▲20.8	▲14.3	▲14.3	9.5	0.0
製造業	▲2.7	▲12.9	▲11.1	▲11.4	0.0	▲35.3



## 資金繰り（好転-悪化）

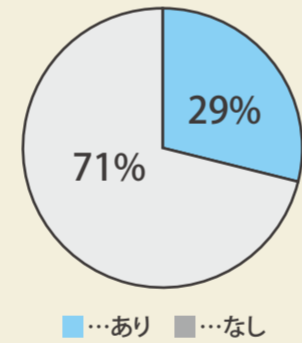
	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	▲6.0	▲2.7	0.0	2.3	▲2.3	▲5.4
卸売業	▲18.8	13.3	▲26.7	▲7.7	▲23.1	▲30.8
小売業	▲12.5	▲21.1	▲8.7	11.8	0.0	5.0
サービス業	2.6	▲1.7	14.0	6.3	0.0	0.0
建設業	0.0	▲4.2	▲4.8	9.5	4.8	▲4.8
製造業	▲8.1	0.0	0.0	▲8.8	▲2.9	▲8.8



# 設備投資の有無

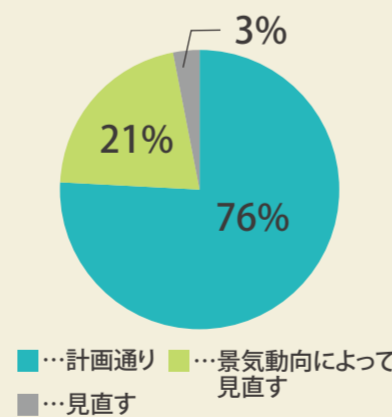
## ① 設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	3	3	10	7	15	38
なし	10	16	36	14	19	95



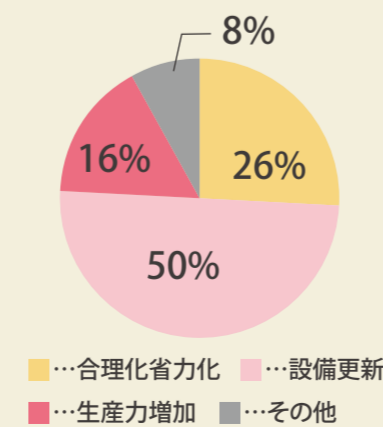
## ② ①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	1	3	9	6	10	29
景気動向によって見直す	2	0	0	1	5	8
見直す	0	0	1	0	0	1



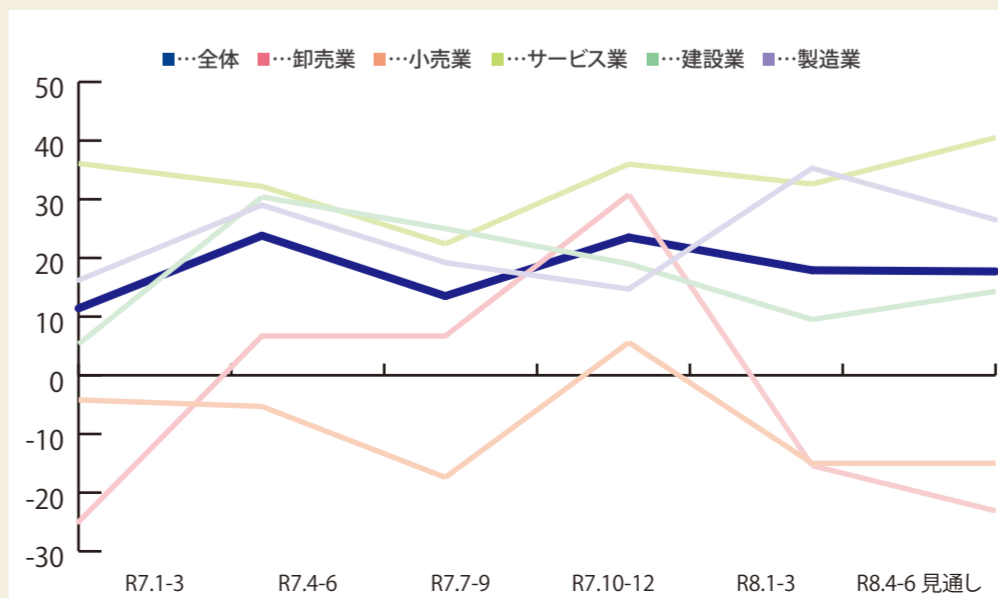
## ③ ①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	1	0	0	1	8	10
設備更新	2	2	8	2	5	19
生産力増加	0	1	1	2	2	6
その他	0	0	1	2	0	3



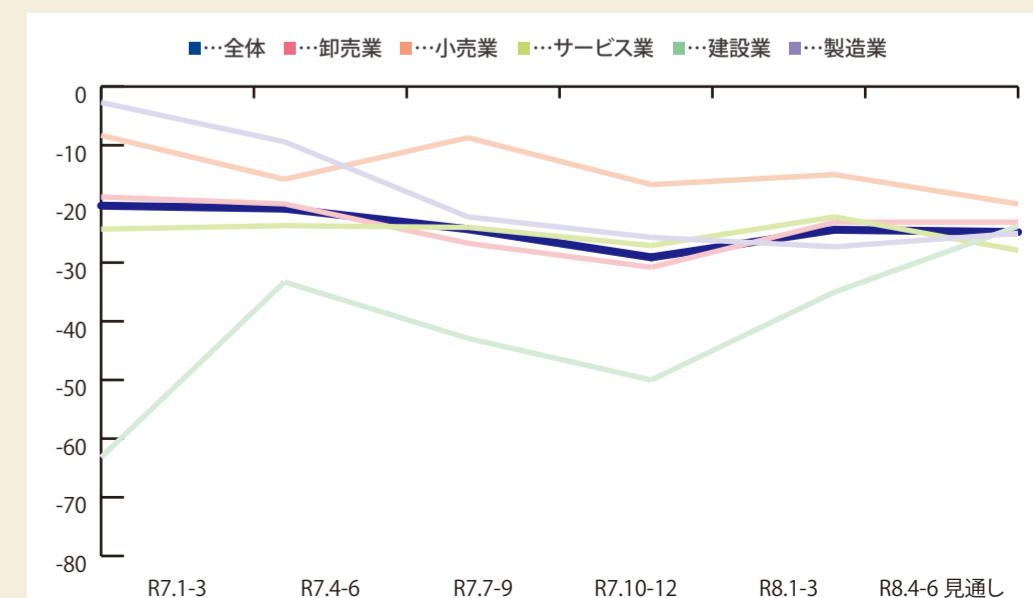
## 採算の水準（黒字-赤字）

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	11.4	23.8	13.5	23.5	17.9	17.7
卸売業	▲25.0	6.7	6.7	30.8	▲15.4	▲23.1
小売業	▲4.2	▲5.3	▲17.4	5.6	▲15.0	▲15.0
サービス業	36.1	32.2	22.4	36.0	32.6	40.5
建設業	5.3	30.4	25.0	19.0	9.5	14.3
製造業	16.2	29.0	19.2	14.7	35.3	26.5



## 従業員（過剰-不足）

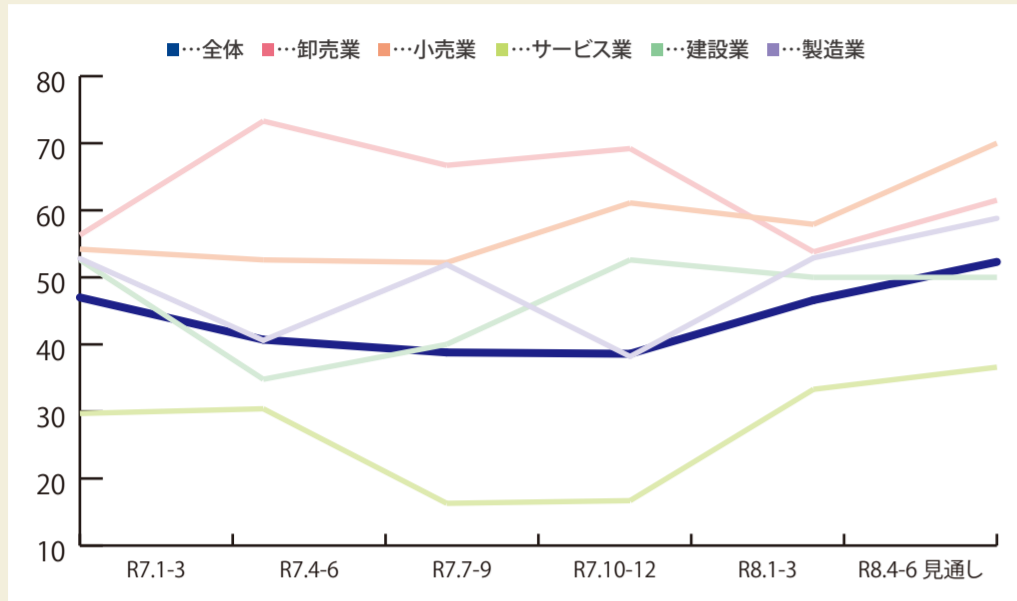
	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	▲20.3	▲20.8	▲24.3	▲29.1	▲24.4	▲24.8
卸売業	▲18.8	▲20.0	▲26.7	▲30.8	▲23.1	▲23.1
小売業	▲8.3	▲15.8	▲8.7	▲16.7	▲15.0	▲20.0
サービス業	▲24.3	▲23.7	▲24.0	▲27.1	▲22.2	▲27.9
建設業	▲63.2	▲33.3	▲42.9	▲50.0	▲35.0	▲23.8
製造業	▲2.7	▲9.4	▲22.2	▲25.7	▲27.3	▲25.0



# 調査項目別 DI の推移②

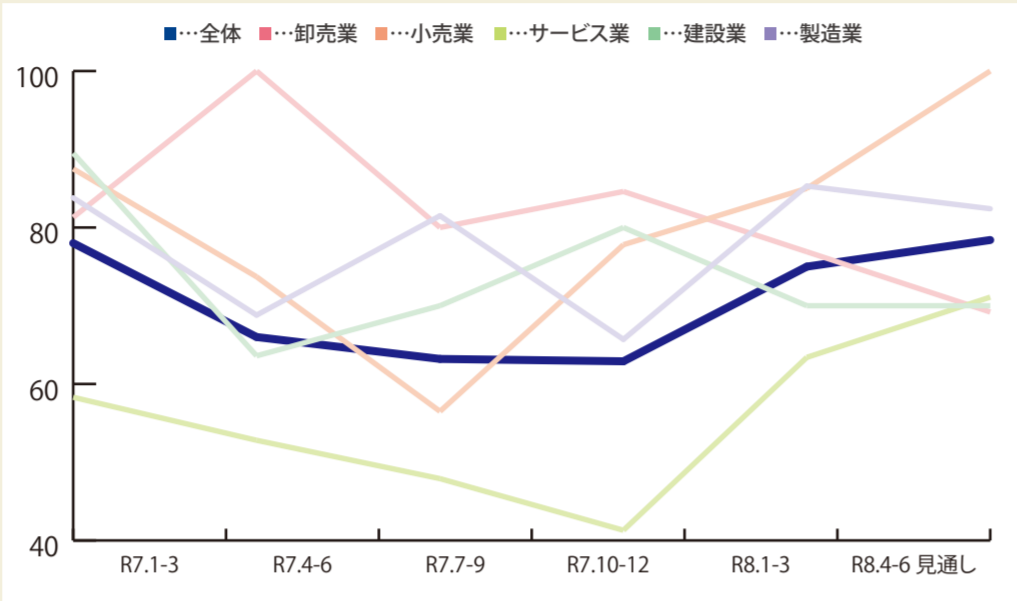
## 販売価格(上昇-下落)

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	47.0	40.7	38.8	38.6	46.6	52.3
卸売業	56.3	73.3	66.7	69.2	53.8	61.5
小売業	54.2	52.6	52.2	61.1	57.9	70.0
サービス業	29.7	30.4	16.3	16.7	33.3	36.6
建設業	52.6	34.8	40.0	52.6	50.0	50.0
製造業	52.8	40.6	51.9	38.2	52.9	58.8



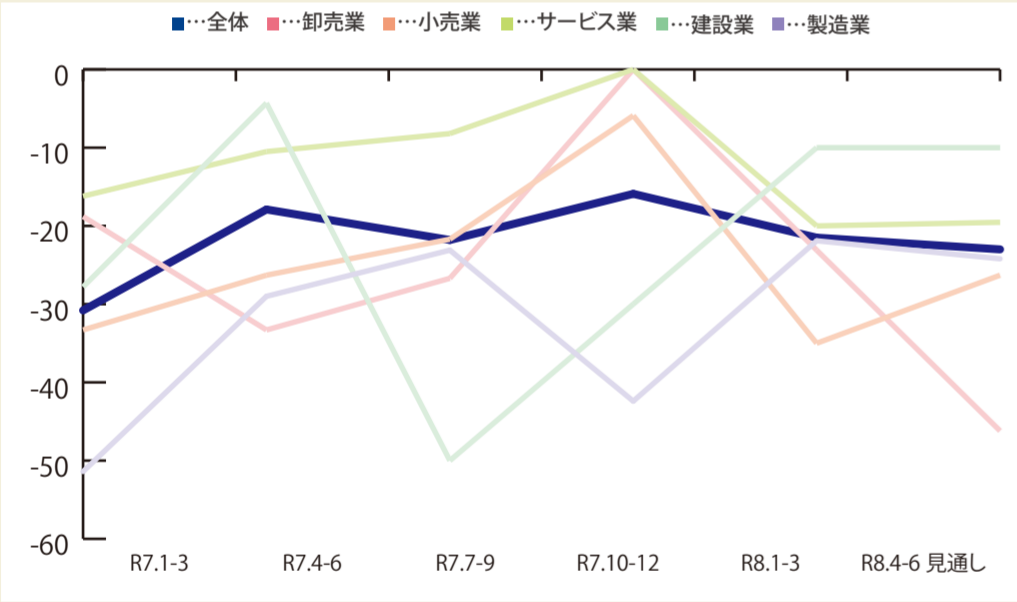
## 仕入価格(上昇-下落)

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	78.0	66.0	63.2	62.9	75.0	78.4
卸売業	81.3	100.0	80.0	84.6	76.9	69.2
小売業	87.5	73.7	56.5	77.8	85.0	100.0
サービス業	58.3	52.8	47.9	41.3	63.4	71.1
建設業	89.5	63.6	70.0	80.0	70.0	70.0
製造業	83.8	68.8	81.5	65.7	85.3	82.4



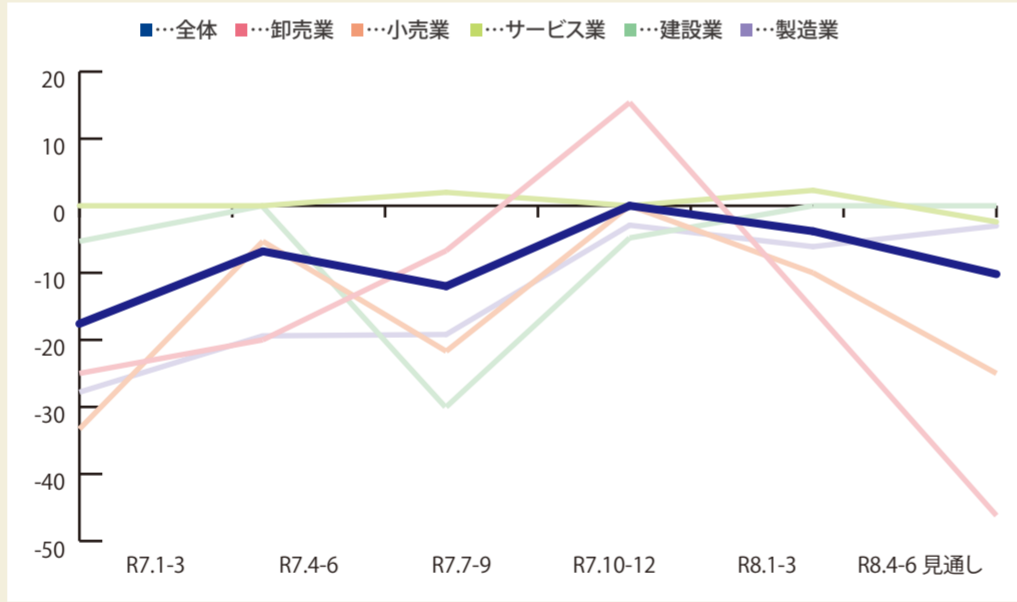
## 業界動向(好転-悪化)

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	▲30.8	▲17.9	▲21.8	▲15.9	▲21.5	▲23.0
卸売業	▲18.8	▲33.3	▲26.7	0.0	▲23.1	▲46.2
小売業	▲33.3	▲26.3	▲21.7	▲5.9	▲35.0	▲26.3
サービス業	▲16.2	▲10.5	▲8.2	0.0	▲20.0	▲19.5
建設業	▲27.8	▲4.3	▲50.0	▲30.0	▲10.0	▲10.0
製造業	▲51.4	▲29.0	▲23.1	▲42.4	▲21.9	▲24.2



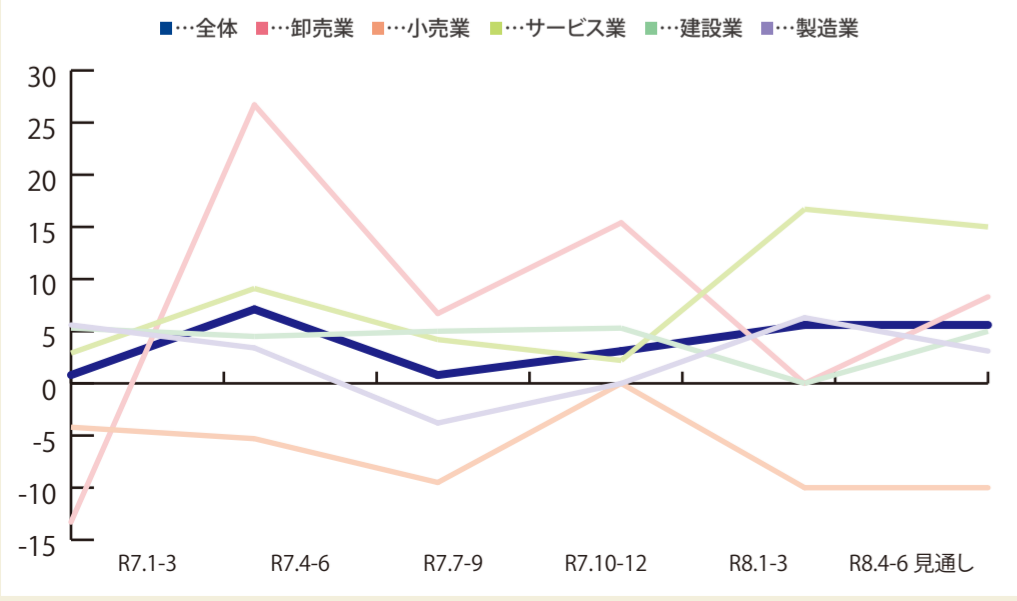
## 取引問合せ(活発-低調)

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	▲17.6	▲6.8	▲12.0	0.0	▲3.8	▲10.2
卸売業	▲25.0	▲20.0	▲6.7	15.4	▲15.4	▲46.2
小売業	▲33.3	▲5.3	▲21.7	0.0	▲10.0	▲25.0
サービス業	0.0	0.0	2.0	0.0	2.3	▲2.4
建設業	▲5.3	0.0	▲30.0	▲4.8	0.0	0.0
製造業	▲27.8	▲19.4	▲19.2	▲2.9	▲6.1	▲3.0



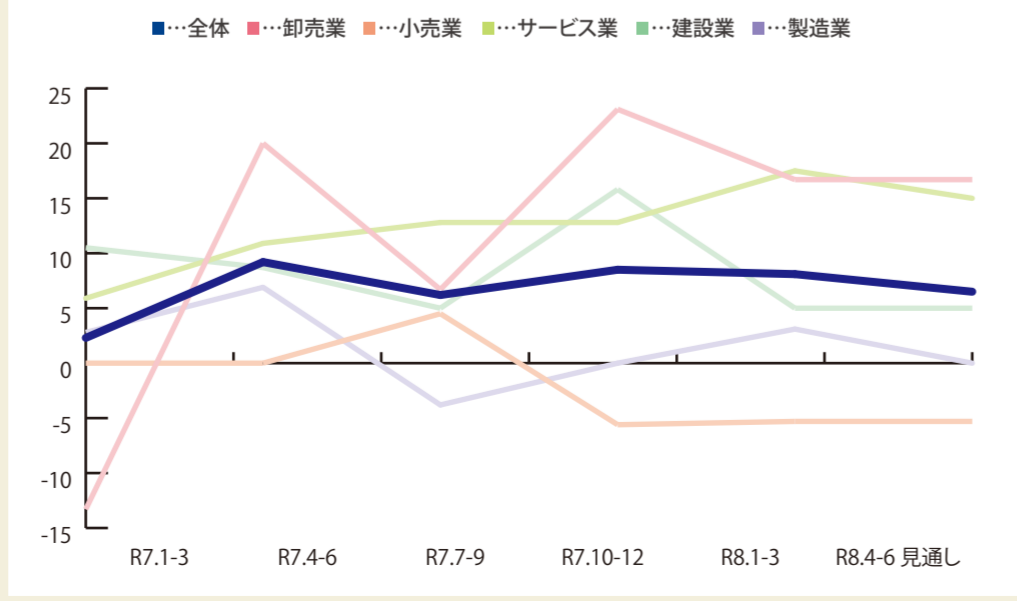
## 長期資金借入難度(容易-困難)

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	0.8	7.1	0.8	3.1	5.6	5.6
卸売業	▲13.3	26.7	6.7	15.4	0.0	8.3
小売業	▲4.2	▲5.3	▲9.5	0.0	▲10.0	▲10.0
サービス業	2.9	9.1	4.2	2.2	16.7	15.0
建設業	5.3	4.5	5.0	5.3	0.0	5.0
製造業	5.6	3.4	▲3.8	0.0	6.3	3.1



## 短期資金借入難度(容易-困難)

	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6 見通し
全体	2.3	9.2	6.2	8.5	8.1	6.5
卸売業	▲13.3	20.0	6.7	23.1	16.7	16.7
小売業	0.0	0.0	4.5	▲5.6	▲5.3	▲5.3
サービス業	5.9	10.9	12.8	12.8	17.5	15.0
建設業	10.5	8.7	5.0	15.8	5.0	5.0
製造業	2.8	6.9	▲3.8	0.0	3.1	0.0



# その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
<b>卸売業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>得意先が好調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラン情勢が悪化すれば、燃料価格などの高騰により仕入価格の上昇と共に需要減退が起きるものと予測される。政府の対策がいつまでも続けられるものではないので影響は大きい。また、食料品やガソリン代など従来から価格変動の大きなものは、状況変化で値下がりがあるかもしれないが、多くの商品は一旦上がったら値下げになりにくいと考える。</li> <li>イラン情勢によっては物価が大きく上昇する可能性があり、注視している。エネルギー不足(石油不足)を懸念する。</li> <li>中東状況による調達難・価格上昇気配からの生産調整と景況の変化。</li> <li>オイルショックと同じような状況になっている。</li> <li>イラン情勢により資材高が先行き読めない。</li> <li>お客様から中東情勢が不安定なため、今後の設備投資は見送るとの声が聞かれた。原油の輸入停滞や値上がりの影響で、通常仕入れしていた商品が入手不可となりお客様に販売できなくなっている。また、原油由来の製品の値上がり激しく、お客様に提示した見積価格を維持するために弊社が負担する事案も増えている。すべての商品を価格転嫁する事は難しい。</li> </ul>
<b>小売業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフレによる単価アップで売上げが微増した。</li> <li>大河ドラマ豊臣兄弟のドラマ館等の博覧会で来訪者の増加。</li> <li>売上げは上昇基調にある。</li> <li>業務用(飲食、宿泊)の受注、石油関連商品の抱え込み注文増、新規問い合わせ増。</li> <li>ネット注文増。</li> <li>福祉事業は調整に推移している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原油価格の高騰で石油製品の原材料の高騰や納期遅延の恐れがある。</li> <li>ビニール等の値上げと米製品の値上げ。</li> <li>客数減少が一番こたえる。</li> <li>購買意欲が少ない。</li> <li>仕入れ価格、光熱費の上昇。</li> <li>政府補助金によるガソリン価格安定策がいつまで続くか。燃料油価格の大幅上昇による需要減が懸念される。</li> <li>鶏肉の外国産が輸入停止している為、国産鶏肉の価格が上昇している。</li> <li>仕入原価や燃料費、人件費等、全般的に経費が上昇し収益への圧迫要因になっている。</li> <li>油関連商品の逼迫による商品確保、及び値上がりによる客先対応苦慮。</li> <li>鳥インフルエンザ起因鶏卵値上がりによる食品値上げ、内容悪化への価格対応や商品変更。</li> <li>少子化に歯止めがかからず生徒減少は止められない。</li> <li>石製品を使う業者が減ってきているため、売上減少(石=高いイメージ)。</li> </ul>
<b>サービス業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金や融資計画サポートに関する問い合わせや受注が増えた。</li> <li>不動産の取得や整理に伴う処分などの動きが徐々に活発になってきている。</li> <li>トラックドライバーが入社したこと。</li> <li>人件費の上昇分を価格転嫁出来た。</li> <li>博覧会での周知が進み多くのお客様が来られている。</li> <li>依頼件数は変わらず対応に追われている。従業員への育成に力を入れていきたい。</li> <li>県外からの問い合わせ、申込みがある。</li> <li>受注内容の幅が広がった。</li> <li>新規利用者が増えた。</li> <li>問い合わせの数が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物価高や経済状況的に来店周期が長くなり、メニュー内容が減り単価が下がった。</li> <li>高齢化少子化。現役世代の減少で潜在化していた地域経済の縮小が顕在化する傾向を強めている。</li> <li>原油価格の高騰は幅広く影響している。企業活動への影響は直接的というより、一般生活と同様に間接的なものが中心である。</li> <li>イラン情勢の影響による軽油価格の大幅上昇による仕入れコストの高騰。</li> <li>高齢者サービスの利用、変容(在宅から施設入所へ)。</li> <li>入札による従来の仕事が減少した。</li> <li>様々なコストが上がっている。</li> <li>為替動向による輸入品単価の上昇。</li> </ul>
<b>建設業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問い合わせ件数の増加。</li> <li>コロナ禍以降、経済活動の再開に伴い特に交通・物流業界において社内環境整備の動きが見られる。大手企業を中心に事務所の建替えや社宅、仮眠室・休憩室等の整備案件が優先的に発注されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物価上昇による顧客側想定予算の乖離に伴う受注減。</li> <li>他府県ではあるが、同業他社の倒産が増加している。原価上昇分を転嫁出来ず利益率低下している。</li> <li>ホルムズ海峡封鎖による原油供給不安の影響で先行き状況読めない。</li> <li>米国・イスラエルによるイラン攻撃によるホルムズ海峡の封鎖等で物流が止まり、特に塗装関係の資材の入手が困難になってきている。また、今後銅材を含む原材料費の高騰による影響(施工費の値上げ・発注者の買い控え・材料の入手確保等)懸念される。</li> <li>原油先行き不透明で仕入難や高騰するものがある。</li> </ul>
<b>製造業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>価格転嫁は交渉がしやすくなった。</li> <li>豊田兄弟博覧会の開催に合わせて市外中心地の観光客が増加している。店舗の売上げも2割程度増えた。</li> <li>たまたま弊社の生産している品種の流通在庫が減少してきたので引き合いがきているが、根本的に業界の業況は悪いので長くは続かないと思われる。</li> <li>お客様からの受注が増えた。</li> <li>取適法の改正などもあり、比較的値上げの話がしやすい。</li> <li>市場における在庫調整が一定程度進んだことに加え、先行きのインフレ懸念もあり問い合わせおよび受注は回復傾向にある。</li> <li>継続して船舶用環境装置の重要は旺盛。</li> <li>コロナ禍に端を発したサプライチェーンの混乱や米中関係の悪化に伴うデカップリングの進展により、大手企業におけるサプライチェーン見直しの機運が高止まりしており、ビジネスチャンスが広がっている。また、大手企業は業績がいい会社が多いので開発予算の増額により発注量が増えている。さらに、原材料費や人件費の上昇を背景に販売価格の見直しを受け入れられやすくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスト上昇は免れない。今後価格転嫁ができるかがポイントになる。</li> <li>原材料やエネルギーの調達不安があり、今後の動向が読めない。自社努力では対応できない範疇にありどうすることもできない。</li> <li>ナフサを主原料とするシンナー供給に支障あり。価格高騰。</li> <li>物価高の影響が消費に勢いが感じられない。今後も閉塞感は続きそうな感じ。</li> <li>石油由来の仕入れ商品の高騰によるダメージ。販売価格にすぐに転嫁できない。現状はまだ一部の商品だが、今後値上げ商品が増える予定。また、在庫不足による不安もある。</li> <li>今後の状況が不安。原油による便乗値上げが始まっている。</li> <li>イラン情勢の緊迫化により世界経済の不透明感が高まり、不景気感の強まりが日本経済にも波及し、消費の冷え込みにつながる懸念される。和装業界は景気の影響を受けやすい業界であり、もともと厳しい状況にある中で、さらなる需要低迷が懸念される。</li> <li>原油不足から一部資材の入手が困難。買上げ水準が高く利益を圧迫。</li> <li>材料調達難が考えられ、生産に限られる可能性もある。</li> <li>イラン情勢による原油高騰の影響で燃料が1.8倍、石油製品の品切れ等で事業活動が困難になってきている。</li> <li>インフレや円安で原料価格が急騰している。原料の高騰分はかるうじて値上げできているが人件費や光熱費の分まではなかなか届かない。</li> <li>原材料費の高騰だけでなく、中国のレアアースやレアメタルの輸出制限によりすでに日本国内では入手できない金属がでてきている。この状態が続いて以前の半導体不足の時のように、自動車などの生産停止に発展しないか非常に危惧している。</li> </ul>